

令和4年度

租税教育実践発表会資料

東松島市立鳴瀬未来中学校
教諭 武山 友里恵

1 はじめに

本単元は、中学校学習指導要領社会編の「B 私たちと経済」の(2)「国民の生活と政府の役割」を指導内容として構成したものである。この中項目では、財政及び租税の役割について、国民の生活と政府の役割について関心を高め、課題を意欲的に追及する態度を育成することを主なねらいとしている。

本単元で取り扱う消費経済や財政、租税の役割などは、租税教育の根幹となる分野であるとともに、生徒の納税者としての意識や自覚を育む上で重要な単元である。財務省によると、我が国の財政収支は2008年のリーマンショックの影響により、他の主要国と同様に悪化し、その後改善傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症への対応のため、2020年はリーマンショックを超える赤字幅となっているとされている。また、普通国債残高は、累増の一途をたどり、令和4年度末には過去最高の1,026兆円に上ると見込まれている。さらに、債務残高の国際比較を見ても、我が国は主要先進国の中で最悪の水準となっていることから、財政の持続性がより一層求められている。

このような、切迫する課題に対して、その課題が生じている背景や現状、今後について考察し、自分の意見をまとめる活動を重ねることによって、納税者としての自覚や責任が生じるきっかけになり、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を高めたり、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしたりする態度の育成を図ることができると考えている。また、社会資本の整備や日本国憲法における納税の義務の意義などを考察することを通じて、政治的な関心や意欲を高め、将来国政に参加する公民としての態度を育成することができる重要な単元である。

2 生徒の実態（3学年生徒 男子19名 女子17名 計36名）

本単元の学習内容に関するアンケートの結果は以下の通りである。

○税ときいて、どのようなことを思いつきますか。（6月24日実施、回答31名）

回答内容	
税の種類に関する回答	消費税（6人）、所得税・固定資産税（2人）、関税・酒税・たばこ税・納税・働いている人の給料（それぞれ1人）
税に対して比較的肯定的な意見	国が一つになっていると感じる、税金がないと救急車や警察を呼ぶのにお金がかかるようになるため必要である、国民を支えるためのお金、国が使うお金に変わる、市に払わないといけないお金、ものを買うときに払うお金、中学生も払う、国やみんなのために使われている、大切なもの、自分のためにも必要なもの、生きていくため、生活する上で税は必要なため少し高くても仕方ない
税に対して比較的否定的な意見	お金を取られている感じがする、高いけど払わなければいけないお金、あるべきものではあるが、消費税は5%にしてほしい、政治家が不正に使っている、少し高い気がする、国民にも何に税金を使っているのか教えてほしい、すべての商品の消費税を同じにしてほしい、おつりの計算が面倒、税が高くなっている、わかりにくい、日本の社会を回して行くのには大切なことかもしれないけれど今の税金は少し高すぎる

○税金の使い道について、知っていることを書いてください。

公務員の給料（11名）、公共事業（7名）、教育費（6名）、政治（4名）、年金・給付金（2名）、日銀への返済（1名）

○東松島市ではどのくらいの税金が納められていると思いますか。

100億円以上（2名）、1億円以上（8名）、1000万円以上（6名）、1000万円以下（3名）

○東松島市の税金はどのようなことに1番使われていると思いますか。1つ選んでください。

災害復旧費（12人）、教育費（6人）、総務費（3人）、農林水産業費（3人）、民生費（4人）、土木費（1人）、議会費（1人）、公債費（1人）

税金の大まかな使途など、税金の種類についての知識を持つ生徒がいることが分かった。また、税金を取られている、消費税を下げしてほしいなど、自らが納税をしているという意識を持つ生徒がいることが分かった。

歳出については、社会資本の整備や公務員の給料、公債など、多様な用途が挙げられた。また、東松島市の歳入については、幅広い回答内容となり、歳入に関して具体的なイメージを持つことができていない生徒がいることが予想される。歳出については、税金が災害復旧費に使用されていると認識している生徒が多く、次いで教育費、総務費となっていることが分かった。

3 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、財政に関する諸課題について着目し、主権者として、より良い社会の構築に向けて、その課題を解決したり、探求したりする力を育成することを目標とする。

その際、基礎的な知識の定着を図るとともに、納税者として自覚や責任といった意識を高めることができるよう、生徒自身の生活と密接した社会的な課題について、考察したり、表現したりする活動を行っていく。また、生徒自身の生活の中に、どのくらいの税金が使われているのか、今後どのような税金の在り方が有効なのかといった課題を考え、議論していく時間を設けることで、より実感を持って学習に臨むことができるようにしていきたい。

4 指導計画

時数	学習内容	学習目標
1 (本時)	・納税の義務がある理由について、資料から調べたり、まとめたりする。	・税金の義務の意味について、自らの生活経験などを踏まえながら考察し、表現する。
2	・税金の種類や仕組みについて、調べたり、まとめたりする。	・税金の種類や仕組みについて、理解する。
3	・国や地方公共団体の財政政策に関する資料を読み取り、現状や課題について調べたり、話し合ったりする。	・国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や課題を考察し、表現する。
4	・社会保障制度の仕組みについて、調べたり、比較したりする。	・日本の社会保障制度の仕組みについて理解する。
5	・今後の国や地方公共団体の財政や社会保障の在り方について、複数の資料から考察し、まとめる。	・少子高齢化における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を考察し、表現する。

5 本時の学習

(1) 題材名「財政の役割と課題」

(2) 目標

- ・納税の義務の必要性について、自らの生活経験と関連付けて考察し、表現している。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 本時の学習過程

段階	学習活動 ○指示、質問／◎主発問／・予想される生徒の反応	形態	・指導・支援上の留意点
導入 10分	1 税金に関するイメージを全体で共有する。 ○「皆さんに税金のアンケートをしてもらいました。皆さんの税金のイメージについて確認してみましょう。」 ○中学生が1年間にどのくらいの消費税を納めているかを問うクイズ 「中学生の皆さんは、1年間にどのくらいの税（消費税）を納めていると思いますか。」 【選択肢】①1万円以上 ②5000円～1万円 ③5000円以下 ○国民負担率を問うクイズ 「日本に住む人々は、平均して1年に何%ぐらいの税金を納めていると思いますか。」 【選択肢】①収入の半分近くの税金を納めている。 ②20～30%の税金を納めている。 ③10%未満の税金を納めている。 ○「納めている税金の額を聞いて、どのような感想を持ちましたか。」 ・とても高いと感じる。もっと少なくてよい。 ・大人がこんなに納めていると思わなかった。 ・案外少ないと思う。もっと納めていいと思う。 2 学習課題を記入する。	全体 全体 全体 ペア ↓ 全体 全体	・事前に実施したアンケートを提示し、税金に対してどのような考えを持っているか全体で共有する。 ・あらかじめ jamboard にクイズを掲載し、回答させる。 ・学年のアンケート結果をもとにした中学生の納税額のデータを提示し、普段の消費の中で納税をしているという意識を持たせる。 ・国民負担率があくまでも平均化された負担率を表しており、全ての国民が同じ負担率ではなく、収入や年代によって負担率が異なることを確認する。 ・どのくらいの金額を負担しているのか、具体的な例を提示し、税負担のイメージを持たせる。 【例 年収500万円のうち、30%の租税負担率の場合の納税額は150万円となる。】 ・2つのクイズを受けて、感じたことなどを意見交換させる。 ・多くの感想を共有させるために、多くの生徒を指名する。
学習課題：どうして、税金を納める必要があるのでしょうか。			
展開 30分	3 自らの生活経験と関連付けさせながら税の使途を調べ、税の社会的な役割や必要性について考察し、まとめる。 ○「1日の生活の中で、どの場面でどのくらいの税金が使われているのでしょうか。」 ○「自分の生活の中で税金が使われていると思う場面を複数挙げ、税金が使われている場面とその金額を調べてみましょう。また、住んでいる地域や町で使われている税金についても調べましょう。」 資料A 宮城県 私たちの暮らしと税 資料B 中学生の税に関する作文 (さいたま市立大宮東中学校2年齋藤さんの作文) 資料C 鳴瀬未来中学校事業等に関する資料	班 班	・机間巡視の際に迷っている生徒や資料の読み取りができていない生徒に対して、資料や教科書のイラストなどを参考にしながら、課題を進めるよう促す。 ・資料を classroom に掲載する。 ・具体的な税金の使途や費用を調べたり、計算したりする活動を通じて、自分の生活に費やされている税金の多さに気付くことができるようにする。

	◎「税金は、社会でどのような役割を果たしていると言えるのでしょうか。」 ○「理由をしっかりと考えて、班の意見をまとめましょう。」 ○「各班のまとめを発表しましょう。」 ・税は、私たちの生活を助ける役割を果たしている。 ・税が無いと教育を受けるのに更にお金がかかるため、教育を支える役割を果たしている。 ・納税の仕組みが無いと、自分の生活だけでなく社会全体が機能しないため、重要な役割を果たしている。 ・税は、人々が一定の生活水準を保って生活できるようにする役割を持っていると言える。	班 班 ↓ 全体	・悩んでいる班に対して、税金が無い社会を想像した時に、どのようなことが起こるのか考えさせたり、税金があることによって支えられている場面について考えさせたりする。 ・班で出た意見をワークシートに書き移すよう促す。 ・発表者を一人決めるよう促す。 ・複数班を発表させ、多様な意見に触れさせる。
終 結 10 分	5 ふりかえりシートを記入する。 ・「本日の学習を通して、納税の必要性について、改めて考えたことや分かったことをふりかえりシートに書きましょう。」 6 次回予告を聞く。 ・「次回は、国や地方公共団体の歳入について学習します。」	個人 ↓ 全体	●納税の義務の重要性について、自らの生活経験と関連付けて考察し、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・東松島市の予算に関するデータを提示し、次回学習する内容想起させる。

6 生徒の感想

- ・税金は高く、よくわからないものでしたが、やっとスッキリした気がした。
- ・1人あたりの1ヶ月の教育費が高校生より中学生のほうが高いことに驚いた。
- ・『税金が果たす役割』で、自班からは出なかったが、他班から国民や国の安全の保証というものも出てきて、それもあるかと思った。税について改めて考える機会になった。
- ・給料から国のためにお金を払わないといけなかったり、消費税を支払ったり、中学生のうちから社会のためのお金を払っていることがびっくりした。税金がないと救急・消防・警察を運営できないから必要なものだと思った。
- ・私は最初、税に対して「お金をとられる」「高い」というマイナスの意見しかなかったが、今回の授業で税金の役割を知り、税を払うことにも意味があり、私達はかなりの恩恵を受けているということがわかった。また、私達の通学路の整備なども税金が使われていることを知って、意外と身近に税金が関わっていることにびっくりした。大人になったらもっと税を払う機会が増えると思うが、しっかり払って行きたいと思う。
- ・税金にいいイメージがあんまりなかったため、税金について学んでいいところをたくさん見つけて行こうと思った。学校の設備や、警察も税金の役割の一部だということがよくわかりました。支えられる側でもあり、支える側でもあるのかなと思いました。
- ・税金の果たす役割とは、私たちが安全な生活を送るために必要なものだと思った。税金は警察や消防にも使われているので税金を払う必要がなくなったら安心安全な生活を送ることができなくなったりしてしまうので税金は必要なものだと思った。
- ・やっぱり知らないだけで結構生活していく中で税金にお世話になってるし、世の中のみんなが生きるための、生活していくための、経済という意味でも税金が必要だと思った。
- ・税は国民みんなの貯金だと思っています。だから不便だなとか思ったら、税を使って補修することができるので必要だと思いました。

- ・税は、私達が豊かな生活を送ることや、現在の生活の維持をするにも税は関係しているから、すごく必要だと思った。税というのは将来ずっと一緒に生きていかなければならないことだと私は考えた。
- ・学校や道路、上下水道など、私達が当たり前利用している建造物が、税金を利用して建てられていたり、建造物以外にも、警察、消防、公共サービスで税が使われている。こう考えると、税金がない世界なんて考えられないし、私達の日々の生活の中で、税金は欠かせないものだと思う。

7 成果と課題

授業実践を終えての成果と課題は、以下の通りとなった。

成果	課題
・事前アンケートやクイズの結果により、関心が高まり、自分事として考えられていた。 ・資料が鳴瀬未来中のものに対するものであり、具体的な金額も提示してあり、生徒が身近に感じる意欲を高める資料だった。 ・税金の例（金額を含め）どの生徒も知っているものを取り上げていたため授業の導入から生徒の興味を引き付けることができていた。 ・個人でまとめる際、班で共有した際に自分では気付かなかった視点に気付き、納得している生徒が見られた。	・税金が使われている場面を、税金を使う場面と混同している生徒がいた。 ・本時では、最後肯定的な意見にまとまったが、否定的な意見を提示して、更に思考を深めるにはどうしたらよいか。 ・税金がなかったら、どういう暮らしになるかを考えさせると、より身近で大切なもの、という捉えだけになるのではないか。 ・生徒の中で具体化があまりできていなかったように感じた。

8 終わりに

今回租税教育として授業実践を行った成果は、税に対して否定的な意識を少しでも変化させることができたことである。授業実践前に行ったアンケートからは、税に対する否定的かつ偏った見方をする回答が多かったが、授業実践後に税への考え方が変わったと答える生徒が増え、生徒の税に対する意識の変容が見られた。

一方で、課題は税を自分事として深く捉えさせることができなかったことである。本時では、生徒が税を身近に感じることができるよう、生徒の生活場面に使用されている税金の具体例などを提示したが、振り返りでは「税は必要なものである」「税は私たちの生活に無くてはならないものである」など、かなり抽象的な意見が多く見られた。よって、生徒自身の生活が税によって支えられているという感覚を芽生えさせ、更に税に関して思考させるためにも資料だけでなく、発問の吟味が重要だと感じた。

本単元の最後に行った授業では、日本の税の在り方について、高福祉または低福祉の社会にしていくなかを考えさせた。その結果、現在の社会保障を維持するためには、税の負担率が高まっていくことは仕方がないと回答する生徒が多く見られた。このことから、終末の授業にかけて税が高い、税の負担を減らした方がよいと捉えていた生徒の意識が変わったことが予想される。このような生徒の意識や考え方の移り変わりが税に対する意識を高めていくうえで重要だと感じた。

今後は、人権の歴史や日本国憲法、政治の学習へと移行するため、今回行った税の学習を軸としながら、授業実践を行っていきたい。